

自由民主党

東日本大震災復興加速化本部長

額賀 福志郎 様

要 望 書

平成31年4月3日

福島県南相馬市長 門馬 和夫

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から8年が経過した現在、本市は、市民が安全・安心に住み続けることのできる環境を取り戻すため、各種復興事業に全力で取り組んでいるところです。

しかし、近隣自治体から約3千人を超す避難者の受け入れが進む一方で、今なお約6千人の市民が市外での避難生活を余儀なくされております。

市内における避難指示解除後の区域については、1月末現在で約3千6百人（震災前居住人口約1万4千人）の住民が帰還しているが、いまだ震災時の25%程度に止まっており、生活の再開、生業の再建、まちの再生など解決すべき諸課題がまだまだ山積しております。

本市の復興を加速化させるとともに、復興・創生期間後も切れ目なく継続的な支援が必要であることから、下記事項を確実に実現するよう要望します。

## 記

### 1 被災地の要望として

#### 【復興庁後継組織と財政支援】

原子力災害の影響が未だ残る深刻な状況からの着実な復興を成し遂げるためには、中・長期的な対応が必要であることに鑑み、令和3年度（2021年度）以降においても、専任の担当大臣を置くなど、被災地の課題に迅速に対応できる復興庁後継組織を構築し、全省庁体制で復興及び諸課題解決に取り組むとともに、被災市町村の現状に即した切れ目ない財政支援を行うこと。

### 2 浜通り地方の要望として

#### 【JR常磐線の全線再開と特急列車等の運行】

JR常磐線は、福島県浜通り地方において極めて重要な交通インフラであり、復興を加速化させていくためにも、全線再開及び利便性の向上は必須であることから、本年度末までの全線再開実現に向けた取組に努めるとともに、福島県浜通り地方と東京を直通で結ぶ特急列車や、福島県浜通り地方と仙台を結ぶ快速列車など、震災前より利便性の向上を図ること。

また、線形改良や道路との立体交差等による高速化など、単なる復旧にとどまらない基盤強化を図ること。

### 3 南相馬市の要望として

#### 3-1【主要アクセスポイントと拠点をつなぐアクセス道路の支援】

福島復興再生特別措置法に基づく福島復興再生基本方針に即して、内閣総理大臣の認定を受けた重点推進計画に基づき、常磐自動車道のインターチェンジから各拠点へのアクセス機能、及び各拠点間を結ぶアクセス道路網の強化を図るため、福島ロボットテストフィールドと南相馬インターチェンジを結ぶインターアクセス道路（都市計画道路下高平北長野線）早期整備のため十分な支援を行うこと。

#### 3-2【スマートインターチェンジと魅力ある教育・子育て環境の支援】

小高区の地域振興、支援活動及び緊急時の避難路の確保のための「(仮称)小高スマートインターチェンジ」を小高区に設置すること。

また、教育施設が集中する小高区中心部（文教ゾーン）では、認定こども園の整備をはじめ、公立学校の適正化などを進めながら、教育・子育て環境の充実が図られるよう努めているところであるが、福島ロボットテストフィールドと小高小・中学校、小高産業技術高校の連携による人材育成も含め、教育施設の整備・活用のための支援を行うこと。

以上